




商業系用途 景観形成のコンセプト

本市には、平塚駅周辺の中心商業地を始め、幹線道路沿いの商業地や日々の暮らしを支える地域の商店街など、多様な個性のある商業地があります。地域の個性をいかしたにぎわいと潤いのある商業地景観を創出するため、商業系用途の施設は、多くの人が集い活気にあふれる空間となるよう質の高いデザインを考えていきましょう。

項目別デザイン基準

<p>① 周辺との 関わりを考える 位置・配置 高さ・規模</p>	<p>にぎわいと活気が求められる商業系用途の施設は、歩行者が足を留めて楽しむ工夫が必要です。敷地の規模に応じてオープンスペースを確保し、ゆとりの空間を創出しましょう。</p> 
<p>② 質を高める 外構・緑化</p>	<p>店先などでは、来訪者を出迎えるおもてなしを演出することが大切です。シンボルツリーからプランターまで、様々なスケールの緑や花を活用するなど、通りに合った演出で店先を彩り、まちなみの魅力を高めましょう。</p> 
<p>③ まちなみを彩る 形態意匠 素材</p>	<p>商業系用途の施設は、来訪者から親しまれるとともに、まちなみと一体感のあるデザインや色彩に配慮しましょう。建物の低層部は、まちなみの中でセンスが光る、楽しく魅力的なファザードを演出しましょう。</p> 

① 周辺との関わりを考える

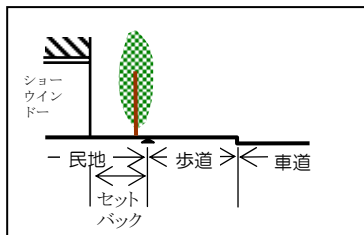
位置・配置

■ 造成

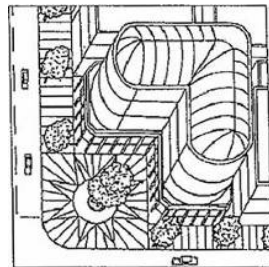
- 当該地域の景観特性に配慮し、地域特有の眺望や樹木等を保全・活用する計画としましょう。
- 切土・盛土など、土地の形状を変更する場合は、できる限り自然の地形をいかすとともに、周辺に圧迫感を与えないよう、高さや土留めなどの構造に配慮しましょう。
- 商業地をデザインする際は、緑豊かな歩行者空間やコモンスペース等を積極的に配置しましょう。

■ 建物

- 周辺の建物と壁面のラインをできるだけ揃え、沿道のリズムを乱さないようにしましょう。
- 通りに対してセットバック（壁面後退）し、人々を引き込み、滞留させる、ゆとりの空間を確保しましょう。



- まちかどの建物は、角地部分の壁面後退距離を大きくとり、まちかど広場の創出に努めましょう。

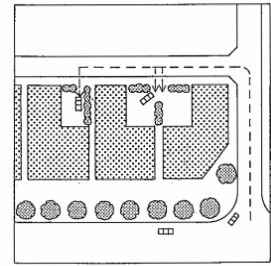


- 規模の大きい商業施設は、周辺に圧迫感を与えないよう、道路等の公共空間から距離をとった配置としましょう。
- 一つの敷地内に複数の店舗を配置する場合は、建物配置に変化を持たせることにより、表情豊かな空間の創出に努めましょう。

■ 駐車場

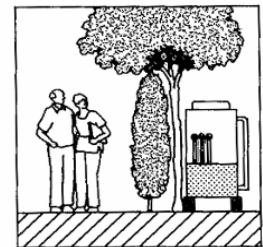
- 駐車場や駐輪場は、なるべく目立たない配置としましょう。
- 商店街のまちなみの連続性がとぎれないよう、駐車場の出入口は通りに面して設置しないようにしましょう。やむを得ない場合は、出入口を一箇所に集約して出入口の面積を最小限にし、植栽を設けたりデザインを工夫するなどして、にぎわいの連続を確

- 2つの駐車場が接する場合は、互いに向かい合わせ、出入口を1ヶ所にしぼるようにしましょう。

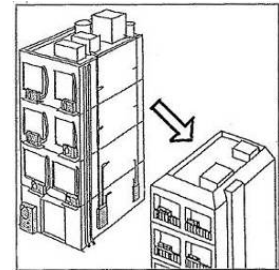


■ 設備機器等

- 給水塔や空調の室外機・配管・ダクト・ゴミ集積所・プロパン庫等の工作物・設備類は、集約し、建物内部に取り込むか、道路・公園・広場等の公共の場から見えない場所に設置しましょう。



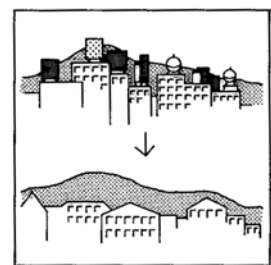
- 給水塔や電波塔・アンテナ・空調の室外機等の屋上設備類や屋上広告物は、極力設置しないようにしましょう。



高さ・規模

■ 建物

- 建物の規模は、周辺との調和に配慮し、圧迫感を与えないようにしましょう。
- 建物のスカイラインは、連続性のある高さとしましょう。



② 質を高める

外構・緑化

■ 緑化

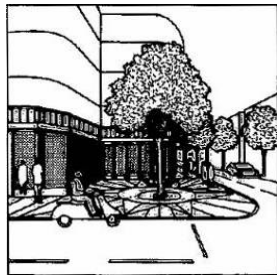
- 通りに面する境界部は、周辺の良好な自然環境や街路樹に調和するような植栽を行い、緑量を確保しましょう。
- エントランスは、シンボルツリーを植栽したり、フラワーポットを置くなど、魅力ある表情の演出に努めましょう。

■ セットバック空間

- セットバックにより設けた空間には、うるおいと安らぎを与える周辺の街路樹と調和した植栽や、ベンチ・フラワーポットなどを配置することにより、にぎわいや楽しさを創出しましょう。

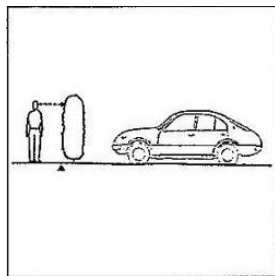


- まちかどに設けた空地には、木かげを創出したり、まちかどのめじるしとなるよう、シンボルツリーを設置しましょう。

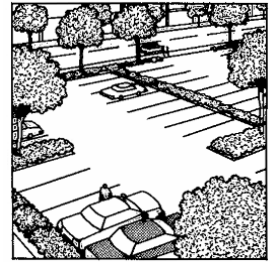


■ 駐車場

- 駐車場や駐輪場の境界部周辺は、緑化に努め、緑量を確保しましょう。境界部に植栽を行う場合は、歩行者から自動車のギラツキが見えないよう、植栽の高さは人の目より高くしましょう。



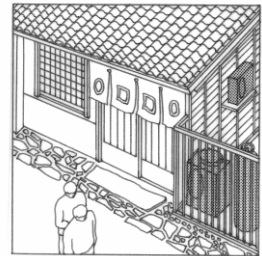
- 駐車場の周囲にフェンスを設ける場合はフェンスの外側に植栽を行い緑化に努めましょう。緑化するスペースのない場合は、目立たなくするよう、フェンスの高さ、デザインに配慮し、周辺との調和に努めましょう。色彩は、茶系統など低明度・低彩度の周辺と調和した色彩としましょう。
- 大規模な駐車場は、駐車区画線に合わせ高木の植栽を行いましょう。



- 鉄骨等によって造られた壁のない立体駐車場は、周辺部に沿って植栽を行ったり、つる性の植物等を使い、積極的な壁面緑化を行いましょう。

■ 設備機器周辺

- 設備等が露出してしまう場合は、ルーバーや遮蔽する効果のある植栽等で隠したり、建物とのデザインの調和に配慮しましょう。

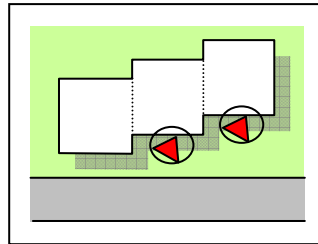


③ まちなみを彩る

形態意匠

■ 建物の形態意匠

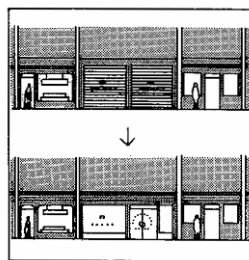
- 建物は、周辺との調和やまちなみとの連続性に配慮し、周辺に圧迫感を与えないデザインとするよう努めましょう。
- 大壁面の連続を避け、壁面に凹凸をつけて分節化したり、雁行配置としたり、色彩などによって壁面に変化をつけることで単調な連続を避け、ボリューム感の軽減に努めましょう。



- 通りに面する建物のデザインは、一階部分の軒高や見切り線をそろえるなど、通りからの見え方に配慮しましょう。



- ファサードは、お店のイメージにあった様々な演出を行い、歩行者空間や通りの表情を豊かにするよう努めましょう。
- シャッターは、パイプシャッター等の透過性のあるものを用い、夜間に照明を消さない等、通りのにぎわいを確保しましょう。特に、早い時間に閉店する銀行等は、通りのにぎわいを演出するよう、シャッターや照明に留意しましょう。



- 大規模な建築物の場合は、中低層部の形態意匠を工夫し、歩行者が親しみをもてる空間をつくりましょう。

- 中心商業地では、建物の一階部分は、商業業務系用途としましょう。その一階部分では、歩行者を引き込むような、店内の様子が伺える開放的なファサードを採用し、商品の陳列・展示によるショーウィンドー化を目指しましょう。



- ランドマークとなるまちかどの建物は、まちかど広場と合わせて、地域の特性に配慮したデザインの建物としましょう。

■ 建物の色彩

- 建物の色彩は、周辺と調和しない原色や突出色を避け、彩度の低い落ち着いたものとしましょう。
- コーポレートカラーは、ワンポイントで使うなど、周辺景観との調和に努めましょう。

■ アンテナ

- アンテナ類は、CATV化や集中化を図り、無秩序に林立することがないようにデザインに配慮しましょう。

■ 駐車場フェンス

- 駐車場フェンスは、目立たなくするよう、フェンスの高さ、デザインに配慮し、周辺との調和に努めましょう。色彩は、茶系統など低明度・低彩度の周辺と調和した色彩としましょう。

■ 広告物・サイン

- 広告物は、雑然とした印象とならず、すっきりと存在感を主張できるよう、数や大きさ、色づかいなどのデザインを工夫しましょう。
- 周辺の環境や設置する建物との調和を図りましょう。
- サインは、必要な情報の伝達のみでなく、わかりやすさ、適切な配置と内容・美しさ・周辺環境との調和をもった統一と秩序あるものに配慮しましょう。

■ アーケード・ゲート

- 店舗単独のアーケードは、極力設置しないようにしましょう。
- 既存のアーケードを改造する場合は軒高が高く連続性があるものとし、透過性の高い屋根の素材や片もちの構造にする等、歩行者にとって明るくゆとりが感じられるようにしましょう。
- ゲートを設ける場合は、道路をまたぐアーチ状のものを避け、すっきりとしたデザインの柱状のものとしましょう。

素材

■ 擁壁

- 擁壁の素材は、自然素材や緑化ブロック、その他の景観上良好な意匠を施した化粧ブロック等を積極的に採用しましょう。また、目地にも変化をつけるなど、周辺への圧迫感を軽減するような措置を施しましょう。

■ 建物

- 外壁や屋根は、耐久性、耐候性、退色性を考慮し、年月の経過で、風格や味わいが変わらない素材を使用するよう努めましょう。
- 輝度の高い金属板等の使用は避けましょう。
- 歩行者の目線に近い低層部分は、自然素材（木材・石材等）を活用しましょう。

■ 駐車場舗装面

- 駐車場の舗装面は、インターロッキングや緑化ブロックなどによって目立たなくしたり、やわらかい印象を与えるよう工夫しましょう。規模の小さな駐車場では、枕木などの活用も考えられます。

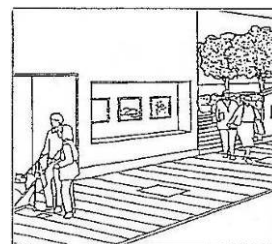


右写真:緑化ブロックを使用した事例

その他

■ ストリートギャラリー

- みちすじが画廊のような空間となるよう「壁画の道」づくりや絵タイル使用により演出しましょう。ただし、装飾過多にならないよう留意しましょう。実現にあたっては、市民参加方式を取り入れましょう。



■ ユニバーサルデザイン

- ユニバーサルデザインを進めることで、誰もが通行しやすく、わかりやすいまちづくりを進めると同時に、景観に配慮した、心地よいデザインとしましょう。
- スロープを設置する場合は、折り返しが多いと景観上良くないため、周辺にとけ込むようなデザインとしましょう。
- 手すりを設置する場合は、設置する場所（屋外・屋内）に応じた耐久性や耐食性があるものとし、材質は、触ったときの感触にも配慮し冬に冷たさを感じにくい木材等を用いるなど、細部にも配慮しましょう。

■ 演出

- 時間帯や季節・場所に合わせてイルミネーションを行うなど、魅力的な夜景づくりを行いましょう。
- 周辺の環境を考慮して、目に見える風景とともに存在する、その場にふさわしい音を大切にしましょう。また、空間的な余裕がある場合は、自然を感じさせる水音の演出なども効果的に活用しましょう。
- まつりやオープンカフェなどを開催し、にぎわいのある景観づくりを行いましょう。



右写真:商店街でのフリーマーケットの様子